

キケン! 収集ゴミから出火

—ごみの分別、徹底のお願い—

今年6月11日 南部町・伯耆町清掃施設管理組合クリーンセンターにおいて、収集ごみから出火する火災が発生しました。幸い大事にいたらず、消しとめられました。しかし、収集作業中に発生した火災は、作業員の命にかかわることもあり、スプレー缶やライターなどの分別方法を誤ると、火災の原因になるのです。

近年、可燃ゴミの中に、ビン・缶・ライターなどの不燃物が非常に多く混入しています。可燃ゴミに不燃物を混入させたまま焼却処分すると、焼却炉の寿命が短くなり、焼却炉が故障する原因になります。

みなさん一人ひとりの意識ある行動が必要ですので、ご協力をよろしくお願いします。



南部町・伯耆町清掃施設管理組合クリーンセンター

生ゴミの水切りをお願いします。



可燃ゴミの重量の約50%が水分です。生ゴミに限ると約80%を水分が占めています。

水分を多く含んだごみは、焼却に余分のエネルギーや経費がかかるばかりでなく、ごみ集積場などに水分がたれるなど、衛生上も好ましくありません。水きりネットを上手に使用して、水分を減らしましょう。また、ネットだけでは十分に水が切れない場合が多いので、捨てる前にもうひと絞りしましょう。

手で絞ることができない場合は、

①手袋やビニール袋を使って絞る

②空き瓶などで押し絞る

③水きり用の道具を使って絞る

など工夫して、水分を減らすように心がけましょう。

使用済み紙おむつが燃料に! 特殊装置でペレット化 実験中

伯耆町清掃センターでは、特殊装置を使い、使用済み紙おむつからペレット燃料を作るリサイクル実験を行なっています。

紙おむつごみは、介護施設や病院などから毎日大量に排出され、年間約50tにも。水分を多く含み燃えにくいという、ひとたび火が付くと高熱で燃焼し、炉を傷める『厄介者』です。

現在、特殊装置を無償で2ヶ月間借り受け、稼働実験を行なっています。今後、導入実績や新燃料の使用用途を調査し、導入の可否を判断します。



導入した、特殊装置



紙おむつごみから作られた、ペレット燃料

紙おむつごみ リサイクルの流れ

①収集した紙おむつをそのまま装置へ投入

②破碎、乾燥、脱臭、滅菌(全自動)

③別装置で、圧縮するとペレット燃料の完成

正しい出し方

・スプレー缶

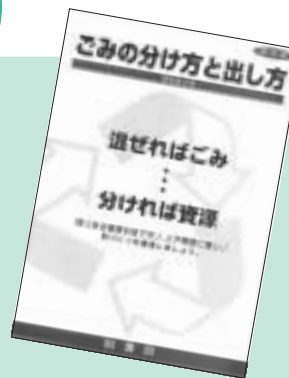
中身を使いきり、穴を開け、【不燃ごみ】に出す。

ただし、通常の【不燃ごみ】とは別の袋に入れて出す。

・使い捨てライター

中身を使いきり、【不燃ごみ】に出す。

※その他、詳しいごみの分別方法は、全戸配布している『ごみの分け方と出し方』をご覧ください。



可燃ゴミに混入していた、不燃物